

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 12月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	0171100282		
法人名	有限会社ナイスケア		
事業所名	グループホームひまわりの家		
所在地	〒066-0073 北海道千歳市北斗4丁目14-4 (電話) 0123-40-3050		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年9月26日	評価確定日	平成20年12月4日

【情報提供票より】(平成20年9月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	11月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	16 人	常勤	14人,	非常勤 2人, 常勤換算 7.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1~2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	16,000~23,500 円	
敷金	有(40,000 円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低	74 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	千歳循環器クリニック 千歳第一病院 北斗内科 赤堀歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、事業者が居宅介護支援・居宅介護事業も経営していることから、開設当初より町内会と関わりを持っている。また、利用者は、町内会の老人クラブに入会し宿泊旅行に参加したり、町内会清掃には利用者・職員が一緒になって参加するなど、交流を深めている。事業者は、過去のホームヘルパーの経験から介護に対する熱い思いを持ち、それが職員にも伝わり、利用者に接する職員の表情にもやさしさが表れている。また、職員は、日々利用者一人ひとりの思いや意向について関心を払い、利用者自らの自己決定を引き出すことに余念がない。利用者の平均年齢は84.2歳と高齢ではあるが、全員元気で笑顔にあふれている。今後も、地域密着型グループホームとしての質の向上への取り組みが期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	包丁などの刃物類の収納場所の扉は、鎖で施錠している。また、薬・洗剤は、厨房室上部の収納場所に保管し、安全に保っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	事業者と職員は信頼関係を築いており、全員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議においては、主に行事に関して協力体制が取り組まれている。特に事業所独自で主催している盆踊り大会は、2年目を迎え、地域住民も参加している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は、運営推進会議の開催時や、家族の訪問時に、小さなことでも家族から苦情や意見を聴き出すようにしており、また、事業所だよりの「ひまわり新聞」を送付して利用者の生活状況等を報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設当初から、地域と関わりを持っており、協力体制ができている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム長は、利用者のあたり前でごく普通の生活を支えるため、家庭的な環境づくりや、地域生活の継続支援のための、柔軟な理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念、基本理念、ケア理念は、職員会議や勉強会で、確認しあうように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の半数近くが、老人クラブに入会しており、宿泊旅行やゲートボールに参加している。また、町内会大掃除には、利用者・職員も参加しており、地域との交流に積極的に取り組んでいる。地域住民の事業所への訪問も多い。また、事業所独自で盆踊り大会を開催しており、地域住民も参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の調査報告書を全職員にコピーして配布し、1ヶ月に1回開催のミーティングで議題にして、その結果を改善計画シートに綴るなどの、具体的な取り組みを進めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、第2火曜日に開催している。主に、大根の漬物つけ・餅つき・パークゴルフ等の行事など、現在取り組んでいる事柄について話し合い、意見を得ている。また、災害時の協力体制の構築にもつなげている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括ケア会議に参加し、情報収集などに取り組んでいる。また、学校からの依頼を受け現場実習を受け入れるなど、地域に貢献している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所だよりの「ひまわり新聞」を発行したり、行事の写真を送付している。また、現金出納帳は利用者一人ひとり個別に管理しており、領収書・出納帳のコピーも家族に送付して報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の開催時や、家族が利用料等の支払い来所持などの面会時に、意見等を聴き出すように留意している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまで、若干名の離職はあったが、その場合、日ごろから馴染みのある1階と2階の職員間で交代し対応をするなど、利用者にダメージを与えないような配慮がなされている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や会議に出席した記録を綴るとともに、研修資料をコピーし職員に配布して、有効に活用しており、職員は日々研修に取り組んでいる。	○	今後は更に、日常的に学んだことを活かすことに取り組むとともに、他事業所職員との交流の機会づくりへの取り組みにも期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括ケア会議に参加し、市内グループホーム間の交流を働きかけており、積極的な連携づくりに取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用にあたっては、本人・家族に事業所を見学してもらい、事前の説明をするなど、本人・家族から納得が得られるような取り組みをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	晴天時は、職員と利用者が一緒に外で朝のラジオ体操をしたり、その後外で食事を摂ったり、バーベキューをするなど、職員と利用者が支えあう場面づくりの工夫に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートに、本人の生活状況とともに、家族の意見も記録しており、それに沿って取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように、本人や家族から要望を聞き、介護計画の作成に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しを行っているとともに、家族や本人の要望に応じて、随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業者は、短期利用共同生活介護事業を取得し、居宅支援事業も経営しており、柔軟な支援に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診は2週間に1回、循環系・内科を、訪問看護は毎週月曜日に外科・整形をそれぞれ受診しており、医療機関との関係を密に結んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に、本人・家族に指針を渡し、説明をしている。また、往診・訪問看護を通して、医療機関との協力体制づくりに取り組んでいる。更に、職員の中に看護師がおり、常時アドバイスを得るようになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「ひまわり新聞」は、利用者に関わる記事・写真を掲載しているので、個人情報の管理の観点から、家族と市役所以外には配布していない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物・散歩など、利用者一人ひとりの状態や思いを考慮しながら、希望に沿うよう柔軟な対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も一緒に摂り、利用者の食を促すよう声かけをしたり、楽しく食事できるように配慮をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるようにしている。利用者の体調に応じて、一人ひとりに合わせた支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の中に農家出身者がおり、畑を作って収穫を楽しんだり、洗濯物やおしぼりをたたむなど、楽しみごとや役割の支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物や気分転換の外出など、本人の希望に応じた支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	早朝より日中の間は開放している。事業所には、併設事業所の職員もいるので、見守りを徹底しており、利用者の暮らしを支えている。夜間は、安全上施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練を実施しており、その様子を記録に綴っている。また、運営推進会議などを通し、日ごろから、自衛隊北部隊・町内会・近隣住民に、協力の働きかけをしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量はアセスメントシートに記録しているとともに、利用者の体調の変化などについては、往診時の血液検査・体重の変化等から把握して、一人ひとりの状態に合わせて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の目線に合わせて、大きな昔風のカレンダーを掲示しているとともに、居間には長椅子を施し、自由にくつろげるようにしている。また、カラオケの機械を置くなどの工夫をしている。トイレも清潔で、嫌な臭いもなく、居心地のよい環境づくりに心がけている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇を持ち込んだり、本人の思い出の写真や壁に大きな字で書いた演歌の歌詞等を貼るなど、利用者の居心地のよさに配慮している。		

※  は、重点項目。